

◆ 4年生・5年生・6年生 ◆

4年生の斉唱「風になりたい」では、曲中にサンバのリズムを取り入れ、これまで以上に磨きのかかった美しい歌声を聴かせてくれました。リコーダー奏「涙そうそう」では、おだやかな曲想を表現しようと、息づかいに気をつけてやさしい音色で演奏することができました。合奏「江～姫たちの戦国～」では、少し緊張した様子でしたが、持ち前の集中力で壮大な音楽を力強く奏でることができました。



5年生は、初めての英語劇に挑戦しました。ミュージカルでお馴染みの「アニー」を元に、英語講師の JOY 先生が英語劇にアレンジしました。ストーリーを何度も読み返し、それぞれの人物がどんな立場でどんな気持ちでいるのかを想像しながら動きや表現を考えました。最後の場面の、「人生にはチャンスがいくつも訪れる。それをつかむためにぼくたち、わたしたちは努力するんだ!」という言葉に、これからの未来に向けての強い決意が感じられました。

小学校生活最後の学習発表会となった6年生。聴く人の心に感動を届けようと、一生懸命練習してきました。二部合唱「地球をつつむ歌声」では、「世界を平和にしたい!」という願いを込めて歌いました。三部合唱「青空のクジラ」では、どんなにつらく悲しい時も、心の海に住むクジラと一緒に前を向いて進んでいこう!という気持ちで表現しました。6年間、鍛えぬかれた歌声は、会場を魅了する素晴らしいものでした。合奏「千本桜」では、最高学年としての風格を感じさせる堂々とした演奏をすることができました。



◆ 全校合唱 ◆

学習発表会の最後は、全校児童で二部合唱を行いました。児童一人ひとりが思い描いている「夢」。みんなの心と夢をつないで、まだ見ぬ明るい未来を自分たちの手で切り開いていこう!という気持ちを表現しました。「学習発表会を必ず成功させるぞ!」という思いが、子どもたちの歌声を自然と力強いものにし、会場の皆様に感動を与えることができたのではないかと思います。



ぎんがの郷コラム

音楽専科 行武 圭一

秋気が心地よく身にしみる季節となりました。スポーツの秋、読書の秋…。その中でも、すばらしい絵画や音楽などに触れる「芸術の秋」も子どもたちに味わってほしいと思います。芸術活動は子どもの感性を育てる絶好の手段です。子どもたちの感性を十分に伸ばすためにどのような関わりを持つことが大切なのでしょう。

一枚の画用紙と色鉛筆で、パンダの絵を描いてみましょう。私たちは、真っ先に黒の色鉛筆を手にとり、輪郭や黒の模様を描くでしょう。仮に、子どもが黒でなくピンクや黄色などのカラフルなパンダを描いたとしたら…。みなさんはどのような声をかけますか? 「パンダはそんな色じゃないでしょ。」「笹も描いてみたら?」などでしょうか。確かに白黒模様ですから一概に間違いとは言えません。しかし、大人が「こう描くべき」という一定の価値観で押さえつけては、子どもの感性は育ちません。子どもは夢の世界のパンダを想像したのかもしれない。自由な発想で絵画を楽しんでいるのに、大人が「正しい描き方」を押しつけたら、子どもの描いた絵を否定したりすれば、感性どころか絵にさえ興味を示さなくなるのだってあるのです。

小学生のうちに、イメージが形にできない経験を重ねてしまうと、せっかくの可能性を潰してしまうことにもなりかねません。表現する力「基礎・基本」の定着を図ることは重要です。その中でも私たち大人が、子どもの無限な創造力の理解者となり認め寄り添うことで、さらに感性は磨かれてくると思います。

ぎんがの郷タイムス第6号は1月上旬にお届けする予定です。